

東北大学大学院情報科学研究科
言語変化・変異研究ユニット主催

講演会のご案内

講師

秋月 高太郎 先生

(尚絅学院大学 総合人間科学部 教授)

日時： 12月21日(月) 14時 ~ 16時
場所： 情報科学研究科棟 3階 310教室
題目： 「役割語の変移 -リアルからヴァーチャルへ、
ヴァーチャルからリアルへ」

概要：

金水(2003)以来、主にフィクションの世界に登場する人物(キャラクター)のことばづかいは「役割語」と名づけられ、その調査や研究が進みつつある。役割語は、マンガ、アニメ、ライトノベル等、ヴァーチャルな世界に登場するキャラクターのことばづかいである限りにおいて、リアルな(現実)世界の話し手によることばづかいは切り離されているように見えるが、この2つはまったく無関係なわけではない。定延(2006)が指摘しているように、現実世界の話し手が、特定の「発話キャラクター(人物像)」を繰り出すために、もっぱら役割語として用いられるようなことばづかいを、実際の会話やブログ・Twitterの発言等ですることがある(「きょうはいい天気だにゃん。」等)。また、金水(2003)では<老人語><博士語>の起源が江戸時代初期に上方から江戸に移住した人々のことばづかいに、金水(2014)では中国人キャラクターに用いられる<アルヨことば>の起源が幕末から明治期に用いられた「横浜ことば」に、それぞれ、さかのぼれることが指摘されている。このように、ヴァーチャルなことばづかいとリアルなことばづかいの間には一定の「交流」が認められる。本発表では、このような研究成果をふまえて、「ござる」と「ございます」が、リアルとヴァーチャルの世界でどのように用いられたてきたかについて述べる。今日「ござる」は、もっぱら忍者や武士のキャラクターに用いられる役割語であるが、近代や近世においては必ずしもそうではなかったことを示す。一方、「ございます」は、現在においてもリアルな場で用いられることのある語彙だが、使用者や使用する場面は限られている。このような例を通して、リアルとヴァーチャルなことばづかいの「交流」について考えてみたい。

~~~~~  
多数の方のご来聴を歓迎いたします(申し込み・参加費不要)

本講演会は、東北大学運営費交付金、および、東北大学大学院情報科学研究科シンポジウム支援経費による補助を受けています。

問い合わせ先： 小川芳樹 (ogawa@ling.human.is.tohoku.ac.jp)

言語変化・変異研究ユニット URL: <http://ling.human.is.tohoku.ac.jp/change/home.html>